



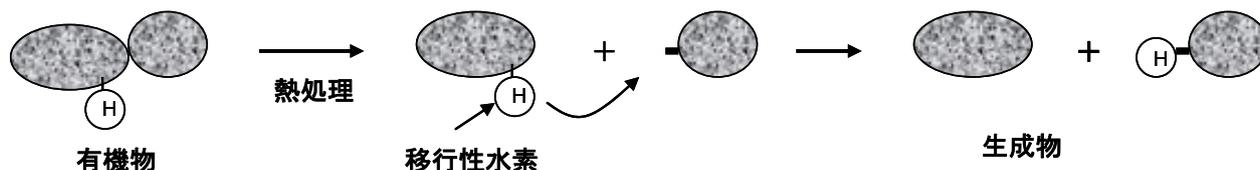
移行性水素量測定試験

石炭やバイオマスなど、有機物の熱処理利用時の原料評価手法をご提案いたします。

移行性水素の測定について

石炭、重油、廃プラスチック、バイオマスなどの有機物を熱処理するとガス、タールや炭素などの生成物が得られますが、原料に含まれるある種の水素の移動が生成物の収量や性状を左右することが知られています。この水素は熱処理時に有機物分子から容易に離れ、他の分解した分子に結合し、これを安定化する機能を持ち、移行性水素と呼ばれています。

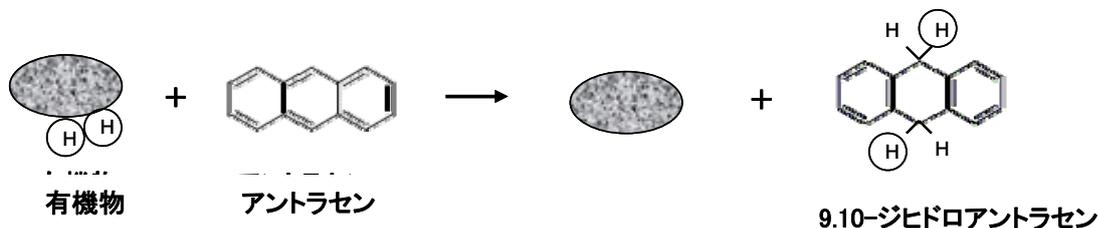
当社は、この移行性水素の定量をお引き受けします。



移行性水素量測定方法

● アントラセンによる移行性水素の定量

移行性水素の定量は下式のとおり、試料をアントラセン共存下、400℃程度で熱処理し、試料に含まれる移行性水素をアントラセンに捕捉させ、その結果生成する9,10-ジヒドロアントラセンを定量する方法で行います。



適用分野

- コークス品質と原料評価
原料配合への応用など(例: 図1、特開平7-287010)
- 石炭や重質残渣類のガス反応における原料特性評価
ガス化反応性に及ぼす原料の影響調査など
- 石炭、バイオマス類の液化反応性評価
液化反応率と原料の関係や液化油の性状評価
- 発電用など低石炭化度炭の品質管理
混焼用石炭としての配合指標への利用など

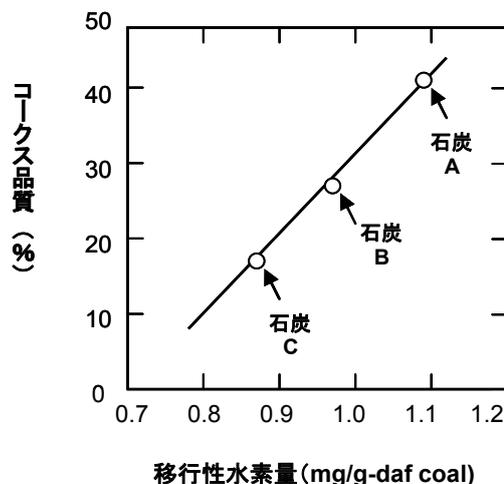


図1 移行性水素とコークス性能の関係



JFE テクノリサーチ 株式会社

<http://www.jfe-tec.co.jp>

0120-643-777

Copyright ©2013 JFE Techno-Research Corporation. All Rights Reserved.
本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい。